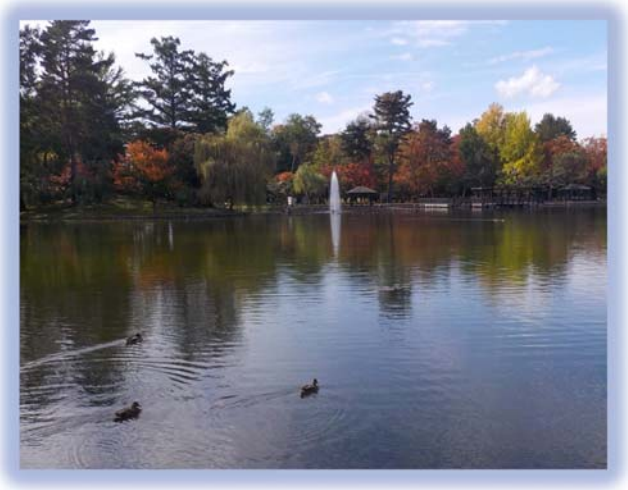
＜説明資料＞

平成３０年度　第２回
常磐公園の緑を考える集い
～市民協働による公園管理～



平成30年10月9日撮影
紅葉が始まった樹木
（千鳥ヶ池ほとり）

Ⅰはじめに
１）スケジュール

平成２８年度（３回開催）
平成２９年度（３回開催）

〇現在の常磐公園について
〇自然環境調査報告
〇常磐公園における管理方法等の検討

平成３０年度予定

第1回	〇常磐公園の管理作業の実践
第2～3回	〇市民協働による維持・管理の実践内容、決定

今回

来年度以降は今年度決定した内容の実施活動
にステージ移行したいと思います。

3）本日のプログラム

- 14：00　開会　（　5分）
- 14：05　オリエンテーション　（　5分）
- 14：10　概要説明・協議事項　現在　（50分）
  - 自然更新ゾーンについて
  - ブッシュについて
  - 樹名板の作成について
  - 樹木更新について
- 15：05　フリートーク　（20分）
- 15：20　意見発表　（　5分）
- 15：25　今後の予定　（　5分）
- 15：30　閉会

前回の概要

1）説明・協議事項

- 樹名板の作成について
- 自然更新ゾーンの現状確認
- ブッシュの改良（ヨモギの移植）
- オオハンゴンソウの除草

2）意見交換

- 樹名板の作成は進めてみても良いと思う。
- （オオハンゴンソウは河川管理者による草刈で確認できなかった）
- （緩傾斜区域の樹木が数本枯損している。）
  →枯損は確認している。予算等課題がクリアできれば更新したい。

1　自然更新ゾーンについて

樹種：ハルニレ　樹高：約1.4m

樹種：ドロノキ　樹高：約1.5m

今後の対応
・来年度には移植が可能となると思われるので移植先を検討したい

緩傾斜化区域（低管理区域）でも実生を確認しました

樹種：カツラ
樹高：約1.4m

2　ブッシュゾーンについて

ブッシュゾーンに移植したヨモギの現状を確認しました

ヨモギ移植後に数回、ヨモギの育成状況を確認しましたが、特に枯損等は確認できませんでした。
来年度以降はヨモギの繁茂を期待しながら昆虫調査等できればと考えています。

3　オオハンゴンソウの除草について

平成30年10月9日撮影

平成30年10月9日撮影

昨年度に除草した対象箇所を確認したところ、オオハンゴンソウを生育されていませんでした。

1　樹名板の作成について

前回説明内容

旭川市では、現在市民の皆様に**樹木や自然に愛着を持っていただけるよう**，常磐公園にて，樹齢などを表記した樹名板の作成を検討しています。
そこで「常磐公園の緑を考える集い」の活動内容として樹名板に記載する樹齢の推定作業をしたいと思います。

1）代表的な樹齢の推定方法

推定名称	方法	メリット	デメリット
幹の太さ	同一環境の切株の幹周と年輪を測定	比較的簡易	対象樹木そのものではない
樹高	同一環境の平均的な成長量から推定	簡易に推定できる	成長量のデータが無い
成長錐	成長錐で採取したコアから推定	対象樹木そのものの樹齢を推定できる	幹に傷をつけるため腐朽する可能性がある
枝の観察	枝の切断痕から推定	対象樹木そのものの樹齢を推定できる	想定しなければならない条件が多い
枝節の段数	枝節の数により推定	対象樹木そのものの樹齢を推定できる	推定できる樹種が限られる
文献・伝承	写真文献等から推定	ー	資料が少ないと考えられる

測定方法

常磐公園には切株も多く残っていることから，**幹の太さからの推定**を採用する。

2）具体的方法

（1）年輪の計測
- 切株の選定
  樹種や状態の確認
- 年輪数の観測
  例）①年輪を10毎計測
  ②その際の幅を計測
- 結果をプロットしグラフ化

（2）対象樹木の樹齢推定
- 対象樹木の幹周測定
  幹周から半径を算出
- 推定樹齢の算出
  グラフから樹齢を読み取る

3）対象樹種の選定

- 代表的な樹種、サクラなど親しみのある樹種
- 希少種（推定が難しいが）
- 既存資料でも樹齢が想定できる樹種

・・・など

5　樹木更新について

樹木更新
これまでの「集い」での協議
・樹木枯損調査
・更新計画策定

⇐ しっかりと実施するには、いずれも専門的知識が必要

市と市民が実施する市民協働のなかではこのようなかたちで樹木更新の方針や計画を管理・実施することは難しい

⇩ 活動を限定

「自然更新ゾーン」にて自生した樹木を、常磐公園内の適切な位置に移植する。その際，集いの参加者にて『百年かけて育む，周辺と調和した彩りあふれる空間』となる様，その移植位置の検討を行う。

「常磐公園の緑を考える集い」として緑の更新を検討
～移植位置周辺に対し枯損木があるか、剪定や伐採の必要があるか～

⇒ 適宜公園管理者・専門家と協議

まずは，先のページで紹介した，自然更新ゾーンの2本の実生について検討したいと思います。

設置箇所（例）
・多目的広場周辺（現在，一番樹木密度が低い）
・天文台と旧川のおもしろ館の間（伐採木が多い、伐根必要、被圧防止のため剪定等必要）
・緩傾斜化区域の枯損木の更新として

6　フリートーク

特に議題を決めずに，「集い」で主体的に実践したい内容など、思っていることがあれば発表していただきたいと思います。

まとめ

1）意見など
2）次回の予定について
　日時：平成31年2月下旬を予定
　内容：市民協働による維持管理の
　　当面の内容検討・決定

開催にあたりいただいたご意見

・常磐公園の池の水を抜いて生物調査を！

　簡単なことと予算がないと市職員はそれで終わっています。私は旭川市民として遠大な目標を立て、不可能を可能にすること、予算がなければ、知恵と人の力でやればよい。いつでもそのことを避けていれば市は良くならない。五十嵐広三氏のように買い物公園の実現のように。

・常磐公園の将来像について

　ひろく市民の意見・要望を聞く必要あり。

　公園を訪れる保育園幼稚園の子どもや指導者の方々の考え方も

・常磐公園楽しみマップ

　植物・動物・水系・記念碑・施設など

　千鳥ヶ池の水はどこから来てどこへ流れていくの etc

・小型（携帯できる）パンフレットがあるといいのでは・・・。

・堤防緩斜面のところの下草について散歩している方が「どうして刈らないのか？」と不思議に思っていると話をしてくれた。ちょっとした「お知らせ」があってもいいのではないかと思います。「下草があると虫の音を聞くことができます。虫の音を楽しんでください。」そんな話をすると『ああなるほどね』とうなずいてくださいました。

・更新木をどうしていくか

　どんな環境だと育てていけるか

　話し合いの中に入れていくのが大事だと思います。

抜粋版

常磐公園植栽計画

平成27月６月

旭川市　土木部公園みどり課

3　基本方針

3.1　テーマ

上位計画や現地調査結果などの内容を踏まえ，本植栽計画の全体テーマを，『百年かけて育む，周辺と調和した彩りあふれる空間』と設定します。

●全体テーマ
『百年かけて育む，周辺と調和した彩りあふれる空間』

3.2　基本方針

本植栽計画の基本方針を次のとおり設定します。

■みどり景観への配慮

- 中低木を含めた多様な樹種を混植し，周辺景観と調和した階層構造のある樹林を形成します。また，密植を避けて適度な間隔で植栽し，下草が生育できる明るさを確保します。
- あずまや周辺や園路沿いなどを中心に，花や紅葉の美しい樹種を植栽し，利用者が樹木に親しみ，楽しめる空間とします。
- 成長の早い樹種を混植し，みどりの早期回復を図ります。将来的な伐採管理も計画します。

■地域性の確保

- 移植や新植する樹種は郷土種を基本とします。外来種が混生している保全木については，将来的な枯死や伐採を見越して，周辺に更新木（郷土種）を植栽します。

■動物・生態系への配慮

- 全体に動物の食樹や実のなる木などを植栽して，生態系に配慮します。生態系への配慮が植栽範囲のみで不足すると考えられる場合には，公園全体での対応を検討します。
- 動物のねぐらなどの利用があり，同時に倒木の危険性がある大径木は，当面の間は極力保全します。ただし，監視を継続するとともに，安全性に配慮して周囲は立入禁止などの措置をとります。その後の対応については，それぞれの状況に応じた方法を検討します。

常磐公園の樹木を更新し，将来にわたって，生態系の原点である樹木の光合成が良好に行われるよう，生長後の樹高や樹冠の大きさなどを考慮した適切な配置とすることや，寿命の長い樹種をバランス良く選定していくことが重要であり，樹木に集まる鳥や昆虫など多様な種類の生物を増やす面からも，例えば，常磐公園内には植生していない旭川周辺の郷土樹種を選定するなど，多様な樹林構造の創出を目指します。（「常磐公園の緑の計画」より）

4.5　配植

(1)　配植の方針

・高木植栽は，整形式の植栽を避け，自然風な植栽とします。
・階段や園路沿い，あずまやの周辺は，花や紅葉の美しい低木で彩りをつけます。
・園路の南側には高木を植栽し，園路に木陰をつくります。
・高木の間に中木の添景樹種（ナナカマド，モミジ類など）を混植し，階層構造を形成します。
・動物の餌となるような食樹や実のなる木を全体に配置します。

(2)　植栽密度

・園内の生育密度を考慮し，目標密度を200～300本/haとします。（低木を除く）

開放的で明るく，下草の生育する樹林を形成するため，園内の他のゾーンの生育密度を考慮し，植栽箇所の目標密度を，現在の生育密度の約半分以下となる200～300本/haとします。

また，植栽直後には，みどりのボリュームの早期回復を図るため，将来の伐採を前提に早生樹種（シラカンバなど）を混植するなどして密度調整を行います。

表 13　園内の樹木（中高木）生育密度

ゾーン（正門除く）	緑地面積（㎡）	全数		径21cm以上		
		本数（本）	密度（本/ha）	本数（本）	密度（本/ha）	全数に対する割合
1	9,610	216	225	129	134	60%
2	14,300	563	394	197	138	35%
3	8,840	181	205	126	143	70%
4	21,130	544	257	254	120	47%
5	10,850	288	265	147	135	51%
6	11,190	603	539	183	164	30%
(6-1) ※	5,660	335	592	91	161	27%
7	1,750	87	497	42	240	48%
8	2,020	105	520	49	243	47%
9	1,910	48	251	10	52	21%
全体	81,600	2,635	323	1,137	139	43%

※緩傾斜整備範囲周辺

(3)　植栽間隔

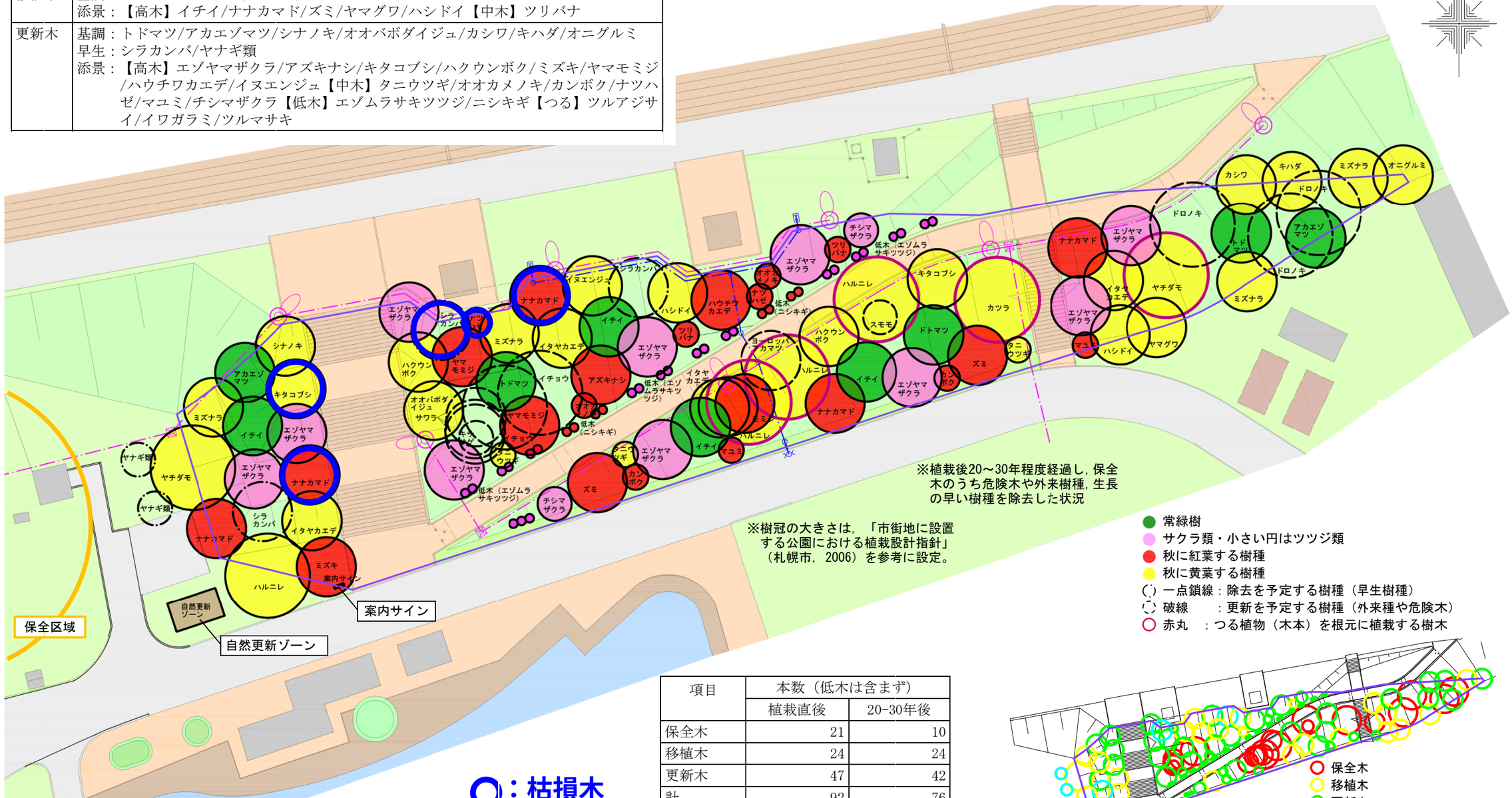
・中高木の植栽間隔は，将来的に大きく樹冠が重ならないように，将来的に想定される樹冠の半径の1/2程度以上の間隔を確保します。
・園路沿いに列植する低木の植栽間隔は，苗間を1.0mとします。
・つる植物(木本)は，保全木の根もとから0.5m離れた位置に植栽します。

「市街地に設置する公園における植生設計指針」（札幌市，2006）を参考に，将来的に樹冠が大きく重複する配植は避け，適正な間隔で配植します。

低木植栽は，苗間を1.0mとし，2～3本毎にまとまった列植とします。つる植物(木本)は，ハルニレなどの高木の周囲で，根元から0.5m離れた円周上の4方向に植栽します。

(4)　植栽平面図

項目	樹種
保全木	基調：ハルニレ/ヤチダモ/カツラ/ドロノキ/イタヤカエデ/イチョウ/ヨーロッパアカマツ 添景：【高木】イチイ/エゾヤマザクラ/モミジ類/サワラ/キササゲ/スモモ
移植木	基調：ハルニレ/ヤチダモ/ミズナラ/イタヤカエデ 添景：【高木】イチイ/ナナカマド/ズミ/ヤマグワ/ハシドイ【中木】ツリバナ
更新木	基調：トドマツ/アカエゾマツ/シナノキ/オオバボダイジュ/カシワ/キハダ/オニグルミ 早生：シラカンバ/ヤナギ類 添景：【高木】エゾヤマザクラ/アズキナシ/キタコブシ/ハクウンボク/ミズキ/ヤマモミジ/ハウチワカエデ/イヌエンジュ【中木】タニウツギ/オオカメノキ/カンボク/ナツハゼ/マユミ/チシマザクラ【低木】エゾムラサキツツジ/ニシキギ【つる】ツルアジサイ/イワガラミ/ツルマサキ



○：枯損木

項目	本数（低木は含まず）	
	植栽直後	20-30年後
保全木	21	10
移植木	24	24
更新木	47	42
計	92	76
生育密度	約300本/ha	約240本/ha

図 12　植栽平面図

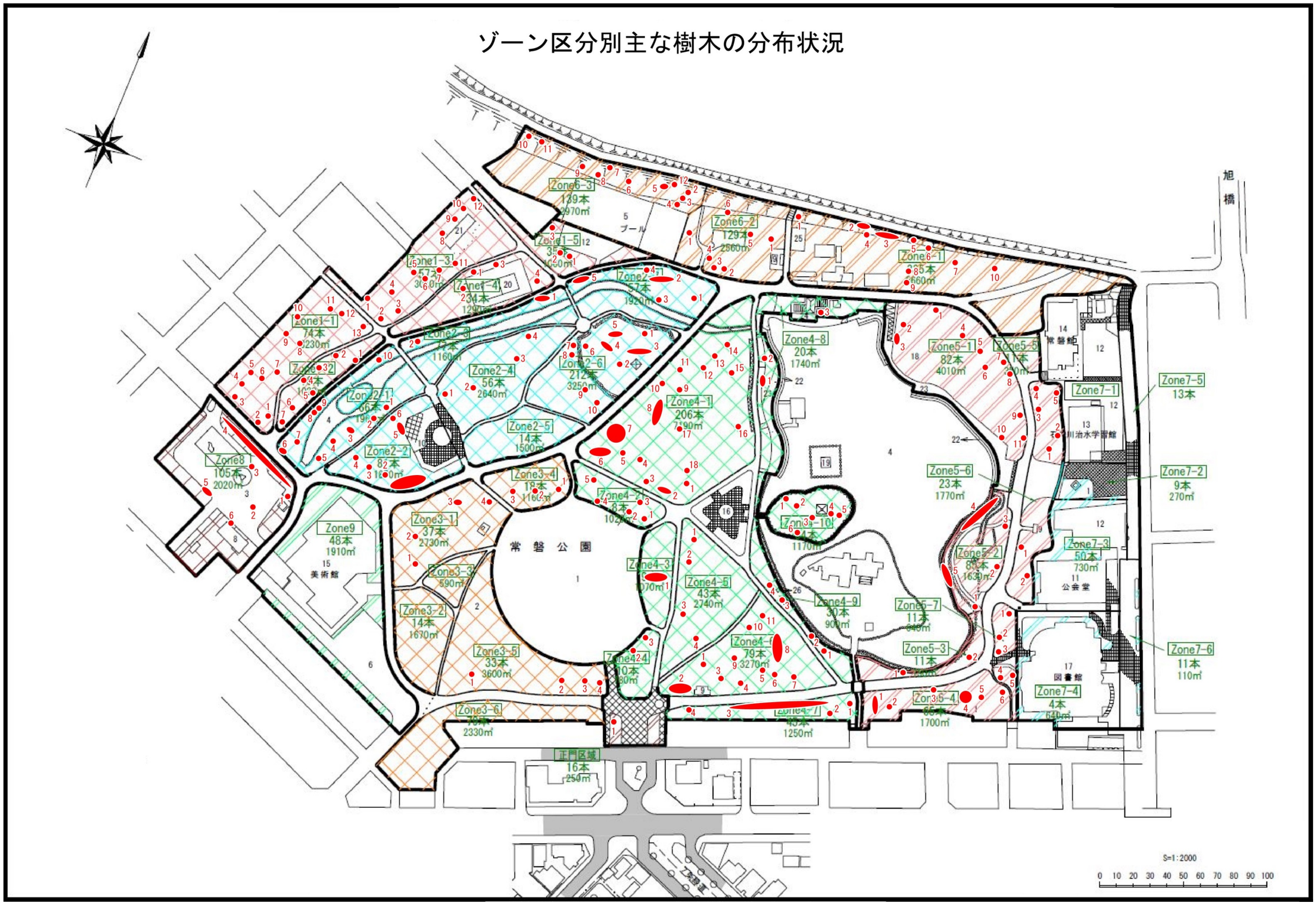


図 19　常磐公園内のゾーン区分別主な樹木の分布状況

表 18　主な樹木の状況

Zone1-1

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	イチョウ	65	22.2	
2	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	75	20.1	
3	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	70	23.0	
4	イチョウ	60	22.4	
5	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	80	24.4	
6	ストローブマツ	70	28.2	
7	イチョウ	50	21.5	双幹
		55	22.3	
8	ハルニレ	105	29.3	
9	ハルニレ	125	23.0	
10	ストローブマツ	60	17.0	
11	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	65	14.4	
12	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	80	29.2	
13	ヨーロッパアカマツ	60	18.2	

Zone1-2

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	50	21.3	
2	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	90	22.5	
3	ヨーロッパトウヒ	70	28.7	
4	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	65	21.8	
5	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	75	21.5	
6	ハリギリ	40-80	21.0	叢生 4本
7	ハルニレ	65	23.5	

Zone1-3

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	90	16.0	
2	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	85	19.3	
3	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	65	20.2	
4	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	95	23.7	
5	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	95	24.6	
6	ヨーロッパアカマツ	55	18.7	
7	イチョウ	70	17.8	
8	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	90	20.5	
9	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	70	21.3	
10	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	75	17.5	
11	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	70	25.1	
12	スモモ(枯死木)	40	4.0	キツツキ穴

Zone1-4

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	75	22.6	
2	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	70	20.9	
3	ハルニレ	90	20.5	
4	ドロノキ	85	23.4	

Zone1-5

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハリエンジュ	45	19.6	
2	ハリエンジュ	70	20.6	
3	エゾイタヤ	50	14.2	

Zone2-1

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	シロヤナギ	110	20.6	
2	ハリエンジュ	55	25.6	
3	ミズナラ	30	13.0	
	ミズナラ	65	21.7	
4	ハリエンジュ	120	21.5	
5	ドロノキ	120	30.3	
6	イチョウ	60	24.3	双幹
		60	23.0	
7	エゾヤマザクラ	55	12.2	
8	ハルニレ	70	21.8	
9	ストローブマツ	60	26.3	
10	ハルニレ	55	21.3	

Zone2-2

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ヨーロッパアカマツ	30-50	12.0-13.2	範囲内に6本
2	イチョウ	60	17.3	
3	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	65	20.5	
4	ヤチダモ	95	25.3	
5	セイヨウハコヤナギ	80-130	31.3-33.8	範囲内に3本
6	シロヤナギ	110	30.0	

Zone2-3

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	セイヨウハコヤナギ	70	20	
	セイヨウハコヤナギ	70	20	
2	ナナカマド	15	4	キツツキ穴

Zone2-4

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	カツラ	40	15.3	双幹
		45	15.3	
2	ハリエンジュ	105	31.3	
3	ミズナラ	75	17.8	
4	オニグルミ	80	16.0	

Zone2-6

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	100	31.1	
2	ヨロッパアカマツ	50	24.2	
3	チョウセンゴヨウ	35	17.0	
	チョウセンゴヨウ	45	19.0	
	チョウセンゴヨウ	40	18.7	
4	ハルニレ	60	24.5	
	ハルニレ	25	20.7	
	ハルニレ	55	26.7	
5	ヨーロッパアカマツ	45	23.1	
	ヨーロッパアカマツ	35	15.9	
6	ハルニレ	75	21.5	
7	ハリエンジュ	45	14.0	
8	セイヨウハコヤナギ	140	34.2	
9	ストローブマツ	60	24.9	
10	キタコブシ	65	15.3	樹洞

Zone2-7

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	70	21.0	
2	ストローブマツ	55	15.3	
	ストローブマツ	50	11.3	
	ストローブマツ	35	15.1	
	ストローブマツ	35	14.3	
3	ドロノキ	140	29.3	
4	オニグルミ	65	16.5	
5	セイヨウハコヤナギ	100	27.6	
	セイヨウハコヤナギ	80	30.6	

Zone3-1

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	100	15.6	
2	ハルニレ	110	18.5	
3	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	50	14.6	双幹
		60	19.6	
4	ハルニレ	55	16.7	

Zone3-4

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	130	20.6	
2	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	50	18.2	
3	ハルニレ	50	21.3	双幹
	ハルニレ	50	19.6	

Zone3-5

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	60	17.9	
2	ケヤキ	80	17.8	
3	ハルニレ	65	18.6	
4	ヨーロッパクロマツ	65	15.4	

Zone4-1

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハリエンジュ	100	28.4	
2	エゾヤマザクラ	40	16.2	キツツキ穴
	エゾヤマザクラ	45	18.5	
3	ヨーロッパクロマツ	45	20.5	No.254
4	ハルニレ	75	28.2	
5	ミズナラ	65	22.9	
6	ドロノキ	100	29.3	
	ドロノキ	105	32.0	
7	イチョウ	45	21.9	
	イチョウ	45	23.1	
8	ドロノキ	75	23.6	
	ドロノキ	80	28.5	
9	ハルニレ	70	22.5	
10	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	45	17.4	
11	カツラ	55	19.1	
12	ヨーロッパクロマツ	50	21.8	
13	ミズナラ	60	21.0	
14	ヨーロッパアカマツ	70	21.5	
15	イチョウ	55	21.1	
16	ストローブマツ	65	27.0	
17	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	50	20.4	
18	ハリエンジュ	90	24.1	
19	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	30	14.5	樹洞

Zone4-2

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	140	33.2	
2	ミズナラ	80	17.9	
3	ミズナラ	65	23.7	
4	ミズナラ	70	20.3	樹洞
5	ミズナラ	65	18.2	

Zone4-3

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	100	23.5	
	ハルニレ	45	23.2	
	ハルニレ	150	27.0	

Zone4-4

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	105	22.7	
2	イチイ	90	14.1	
3	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	60	15.4	

Zone4-5

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	110	27.5	
2	ミズナラ	60	21.0	
3	ハルニレ	120	25.9	
4	ハルニレ	120	22.1	

Zone4-6

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	70	23.5	双幹
		60	24.3	
2	ハルニレ	70	18.3	
	ハルニレ	65	18.2	
	ハルニレ	65	14.5	巣穴+カラス巣
3	ハルニレ	110	18.1	
4	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	50	16.7	
5	ドロノキ	110	20.3	樹洞
6	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	50	19.7	
	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	40	19.5	
7	チョウセンゴヨウ	50	18.8	
	チョウセンゴヨウ	40	17.9	
8	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	50	24.5	
	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	50	19.6	
9	ハルニレ	60	25.8	双幹
		70	26.4	
10	ドロノキ	130	28.2	コウモリ営巣
11	ヨーロッパアカマツ	30	11.7	
		35	12.1	キツツキ穴

Zone4-7

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	130	26.8	
2	ミズナラ	65	17.8	
3	チョウセンゴヨウ	50	16.5	
4	チョウセンゴヨウ	50	15.0	
	チョウセンゴヨウ	50	9.7	
	チョウセンゴヨウ	50	16.7	
	チョウセンゴヨウ	50	16.3	
	チョウセンゴヨウ	50	16.4	
	チョウセンゴヨウ	50	14.9	
	ミズナラ	50	15.0	

Zone4-8

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ヨーロッパアカマツ	40-60	6.7-11.1	範囲内に3本
2	イチョウ	50	15.8	
3	シダレヤナギ	60	10.8	

Zone4-9

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	90	28.3	
2	ドロノキ	125	32.3	
3	ハルニレ	80	23.2	
4	ドロノキ	110	27.4	樹洞

Zone4-10

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	カラマツ	60	28.4	
2	カラマツ	80	27.6	
3	イチョウ	65	20.3	
4	ヨーロッパアカマツ	70	24.7	
5	メタセコイヤ	100	26.4	
6	シダレヤナギ	70	23.4	

Zone5-1

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	75	18.6	
2	ハルニレ	75	18.9	
3	サクラ	45-60	17.0	範囲内に3本
4	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	50	19.7	
5	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	30	16.8	
6	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	25	18.5	
7	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	60	14.1	
8	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	30	13.4	双幹
		35	13.4	
9	ハルニレ	65	18.6	
10	ヤチダモ	60	17.9	
11	ハルニレ	100	17.3	

Zone5-2

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	110	22.5	
2	ハルニレ	95	26.6	
3	ヤチダモ	80	19.7	
4	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	40	11.5	
	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	55	12.7	
5	ヨーロッパトウヒ	40	20.5	
	ヨーロッパトウヒ	50	20.4	
	ヨーロッパトウヒ	40	18.0	
	ヨーロッパトウヒ	65	20.5	

Zone5-3

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	シダレヤナギ	60	9.7	
2	シダレヤナギ	60	8.6	

Zone5-4

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	チョウセンゴヨウ	50	14.0	
	チョウセンゴヨウ	70	19.1	
2	チョウセンゴヨウ	50	18.6	
3	カシワ	65	21.7	
4	ヨーロッパトウヒ	50	23.7	
	ヨーロッパトウヒ	55	25.6	
	ヨーロッパトウヒ	35	23.5	
5	カシワ	85	20.7	
6	ハリエンジュ	120	24.5	

Zone5-7

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ヨーロッパアカマツ	60	18.9	
2	カラマツ	70	21.1	
3	イチイ	60	6.1	
4	チョウセンゴヨウ	65	17.1	
5	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	70	17.5	

Zone6-1

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハリエンジュ	50	17.8	
2	エゾイタヤ	20-50	10.0-18.3	範囲内に4本
3	ハリエンジュ	40-50	15.0-19.9	範囲内に4本
4	オニグルミ	40	10.0	
5	ハルニレ	50	20.9	
6	ハリエンジュ	50	18.8	No.132
	ハリエンジュ	50	19.0	No.131
	ハリエンジュ	45	21.0	No.118
7	ハルニレ	65	23.2	
	ハルニレ	80	17.0	
9	ハルニレ	35	13.5	
10	ヨーロッパアカマツ	45	15.0	

Zone6-2

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ヤマグワ	40	10.7	
	ヤマグワ	40	11.8	
2	ハルニレ	70	20.8	
3	ハルニレ	50	22.2	
4	シラカンバ	45	20.1	
	シラカンバ	65	16.2	
5	ハルニレ	30	16.2	双幹
		45	14.8	

Zone6-3

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	シナノキ	50	22.7	
	シナノキ	50	19.2	
2	ハルニレ	70	23.4	
3	ミズナラ	45	24.2	双幹
		40	23.9	
4	ハルニレ	55	21.0	双幹
		60	19.3	
5	ヨーロッパトウヒ	30-50	21.0	範囲内に3本
6	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	55	15.1	
7	ハルニレ	115	22.5	
8	シラカンバ	60	19.6	
9	ハリエンジュ	60	20.3	
10	エゾヤマザクラ	50	9.8	
11	エゾヤマザクラ	30-50	11.7	叢生 3本
12	オニグルミ	40	16.1	球果多数

Zone7-1

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	95	13.6	
2	セイヨウハコヤナギ	185	27.5	
3	キタコブシ	35-50	14.5-14.8	叢生 3本
4	プラタナス	60	18.8	
5	プラタナス	100	17.1	

Zone7-3

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ヤチダモ	80	14	
2	ハルニレ	110	20	

Zone8

No.	樹種	胸高直径(cm)	樹高(m)	備考
1	ハルニレ	115	31.5	
2	ハルニレ	90	28.5	
3	ハルニレ	105	30.8	
4	ストローブマツ	40-75	17.6-27.0	範囲内に8本
5	エゾイタヤ(イタヤカエデ)	50	16.2-20.4	範囲内に2本
6	エゾヤマザクラ	30	9.3	キツツキ穴

(3)　緩斜面化箇所の維持管理

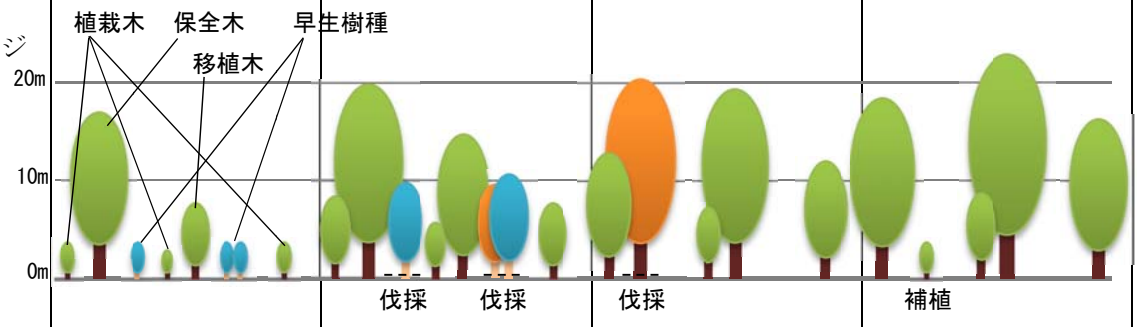
・樹木の生育，枯損状況を確認しながら，その結果に応じた管理（順応的管理）を行います。

緩斜面化箇所の植栽木は，成長不良や枯損も想定されることから，生育状況を監視して，除草や施肥などの適切な維持管理を行っていきます。移植木や通気対策を施す保全木は，将来的な生育について不確実性もあることから，監視結果に応じた補植などの対策を講じます。

植栽直後の緑の量を確保するために導入する早生樹種に関しては，放置すると周辺の樹木を被圧する可能性があることから，周囲の樹林の形成状況を確認し，20～30年後を目処に適切な時期に除去を行います。

樹林を育て維持していくのに必要と考えられる維持管理メニューを表 19に示します。

表 19　維持管理メニュー

	植栽直後	20年後	50年後	100年後
成長イメージ				
管理メニュー	**監視** **除草** **補植** **支柱除去**	**監視** **補植** **剪定** **早生樹種の除去**	**監視** **剪定** **危険木除去**	**監視** **剪定** **危険木除去** **更新樹木植栽**
備考	早生樹種を混植	生育密度を確認	危険木診断	危険木診断

(4)　常磐公園植物管理マニュアル（仮称）の作成

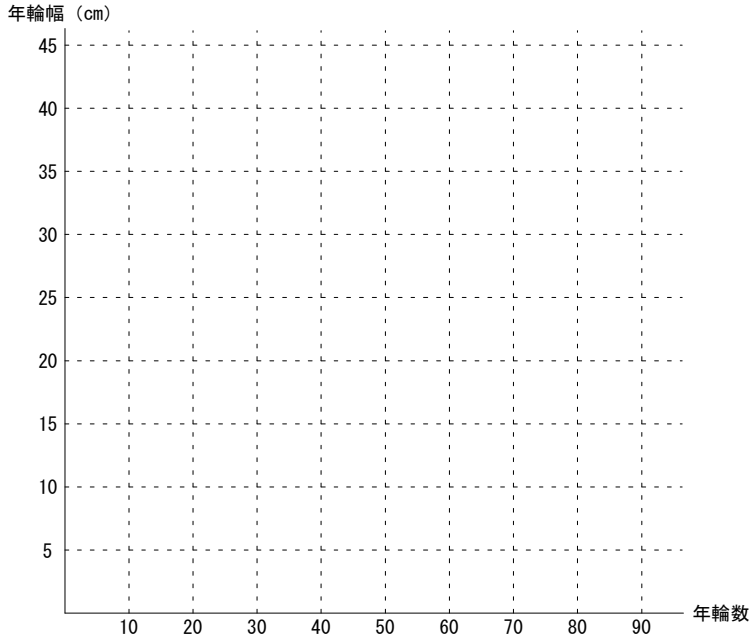
・植物管理マニュアル（仮称）を作成し，適切な緑の維持管理を行います。

常磐公園の環境や利用状況にあわせ，自然環境調査の結果を参考として常磐公園の生物多様性にも配慮した独自の植物管理マニュアルを作成し，利用者の安全を確保しながら，常磐公園の自然環境に適した維持管理を行います。

（巻末参考資料：「常磐公園植物管理マニュアル（案）」）

年輪グラフ

No.	場所	樹種名	周辺環境	切株の高さ	測定方位	10年輪毎の幅								備考
						10	20	30	40	50	60	70	80以上	



樹齢推定表

No.	管理No.	樹種名	周辺環境	幹周	半径	推定樹齢	備　　考

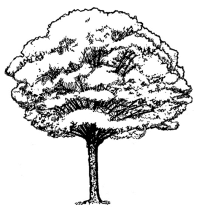
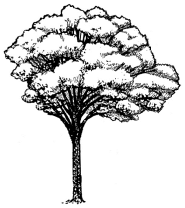
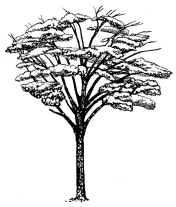
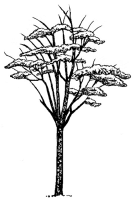
抜粋版

常磐公園の樹木の点検・診断にについて（案）

平成 29 年度第 3 回

常磐公園の緑を考える集い

樹勢・樹形の活力度診断基準表

診断項目	活力度				
	1 	2 	3 	4 	5
樹勢	旺盛な生育状態を示し、被害が全く見られない	いくぶん被害の影響を受けているが、あまり目立たない	異常が明らかに認められる	生育状態が劣悪で回復の見込みが低い	ほぼ枯死している
・枝の伸長量	良好	いくぶん少ないがあまり目立たない	枝は細くなり短い	枝は極度に短小、ショウガ状の節間がある	ほとんど成長していない
・梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるがあまり目立たない	多い	著しく多い	ほとんど枯損している
・下枝の先端の枯損	なし	少しあるがあまり目立たない	多い。切断が目立つ	著しく多い。大きく切断されている	ほとんど枯損している
・枝や幹の枯損、損傷	なし	穿孔（せんこう）・傷が少しあるがあまり目立たない	古い傷が残る	腐朽、空洞が著しい	大きな腐朽、空洞、樹皮の剥がれがある
・剪定後の巻き込み	巻き込みが早く良好	普通	やや遅く剪定断面が残る	著しく不良で剪定断面が腐朽	巻き込みが見られず腐朽が著しい
・葉の大きさ	良好	所々に小さい葉がある	全体的にやや小さい	全体的に著しく小さい	小さな葉がわずかしかない
・葉の色	良好	少し変色が見られる	変色が多い	変色が著しい	ほとんどが変色している
樹形	望ましい樹形を保っている	若干の乱れはあるが、望ましい樹形に近い	望ましい樹形の崩壊が進んでいる	望ましい樹形がかなり崩壊し回復の見込みが低い	望ましい樹形が完全に崩壊している
・枝葉の密度	枝と葉が密でバランスがとれている	普通。活力度１に比べてやや劣る	やや疎	枯枝が多く葉の発生が少ない。密度が著しく疎	ほとんど枝葉がない

活力度3以上が1つでもあれば診断（健全度判定）の対象とする。

点検の視点

樹木全体を見る

・樹木の活力が低下していないか。
・頂部が枯れ下がっていないか。
・枯枝が多数発生していたり、生きた枝葉の量が極端に少なくないか。
・葉の大きさが著しく小さい、又は葉の密度が著しく少ないことはないか（周辺の同樹種と比較）。
・樹木全体又は一部に、倒木や落枝となった時に、事故につながるような危険がないか。
・樹形にアンバランスな箇所がないか。
・アリが大量に発生していないか。

枝～幹を見る

・大枝が枯死していないか。
・枯枝が落下する恐れがないか。
・幹及び大枝に顕著な空洞や腐朽、損傷がないか。
・幹及び大枝の分岐部が入り皮*になっていないか。
・幹や大枝にキノコ（コフキタケ、カワラタケ、アラゲカワラタケ、スエヒロタケなど）が発生していないか。
・幹などから異常にヤニが出ていないか。

地際部（根株）を見る

・幹を押すと揺らぐことがないか。
・地際部に顕著な空洞や腐朽、損傷が発生していないか。
・地際部にキノコ（ベッコウタケ、マンネンタケ、スルメタケなど）が発生していないか。
・樹木の周辺にキノコ（ナラタケなど）が発生していないか。

周囲を見る

・根によって縁石や舗装が持ち上げられていないか。
・建築限界*を超えていないか。
・枝葉が信号や道路標識、街灯等を遮っていないか。
・民地への枝の越境はないか。

点検のポイントについて

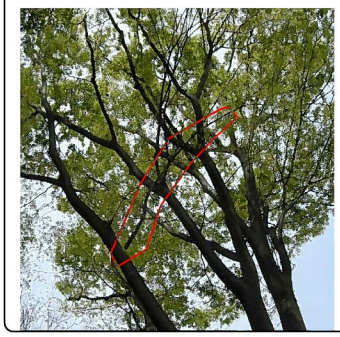
下図の項目に1つでも当てはまる場合は診断（健全度調査）の対象とします。ただし、③幹の剥がれや空洞については次ページも参照ください。

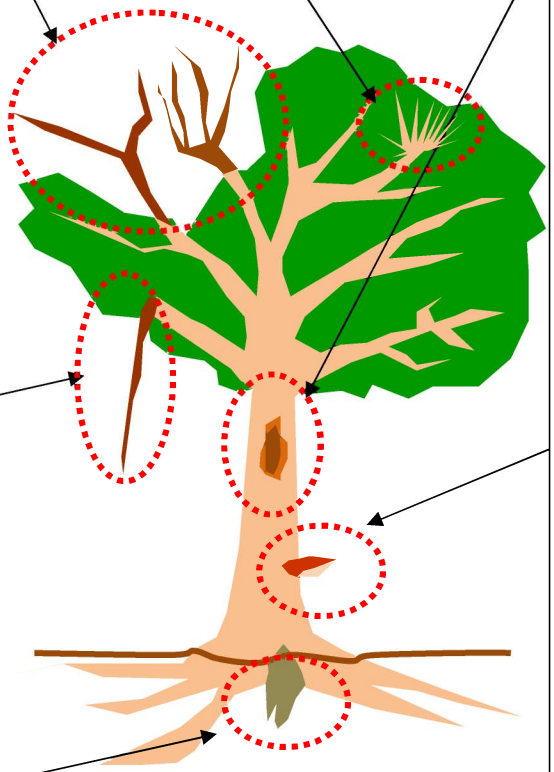
①枯れ枝：
枯れ枝が多い場合には、樹木の活力が低下している可能性があります。

②てんぐ巣病：
茎・枝が異常に密生し、立ち枝がほうき状なる状況です。多発すると樹木が衰退する可能性があります。

③幹の剥がれや空洞：
樹皮の欠損や、枝の抜けた箇所から腐朽が入る可能性があります。

④折れ枝：
枯れ枝がひっかかっており、風により落下の恐れがあります。折れた箇所が大枝の場合、腐朽する可能性があります。





⑤枝や幹にキノコ等の菌類が発生：
幹や大枝にキノコが発生している場合は、その枝が落下する可能性があります。

⑥根株周辺にキノコ等の菌類が発生：
根株が菌類に感染しています。根元が腐朽し、樹木が倒木する可能性が高い状態です。

部位診断項目の診断ポイントと判定

樹皮枯死・欠損・腐朽（周囲長比率）

樹皮の枯死・欠損・腐朽部の大きさを測定し、当該被害箇所の幅がその部位における幹の周囲長に対して 1／3 未満、又は 1／3 以上であるかを記入する。

被害について、おおよその原因を特定する。例えば、車両による接触などで樹皮が欠損し、腐朽や枯死に及ぶことがある。樹皮の薄い樹種で樹勢が弱っている場合などは、強い日差しや高温が続くと、形成層が壊死し、樹皮が溝状に腐朽・枯死することがある。

腐朽による樹皮の枯死・欠損の場合は、罹病部における材の腐朽の現状や進行状況を把握して落枝、幹折れ、倒木の恐れを判定する。心材に腐朽が進行していると考えられる場合には、鋼棒等を用いて内部の腐朽の程度などについて診断する。

樹皮枯死・欠損・腐朽の判定基準

被害・程度		判定
なし		健全か健全に近い
周囲長比率 1／3 未満	軽微な被害、または 軽微な処置で対処できる	健全か健全に近い
	被害は進行していない	注意すべき被害 （必要に応じて精密診断）
	被害が進行している	著しい被害 （必要に応じて精密診断）
周囲長比率 1／3 以上	被害は進行していない	注意すべき被害 （必要に応じて精密診断）
	被害が進行している	著しい被害 （精密診断が必要）

写真Ⅲ-2･3　幹の腐朽（大）

写真Ⅲ-2･4　幹の樹皮欠損（小）

写真Ⅲ-2･5　幹の樹皮枯死（大）

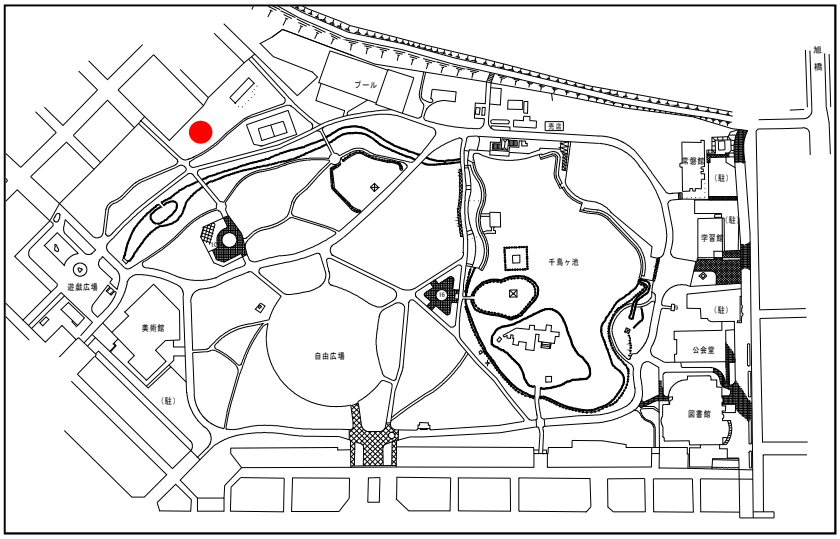
診断票

記載例

樹木 No.	1
調査者名	大窪

平成30年　3　月　9　日　調査

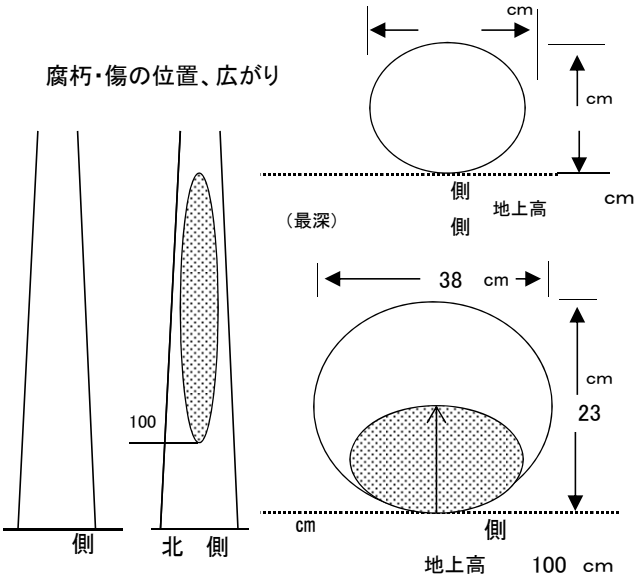
位置図



箇所別		1	2
樹木の健康度	傷の位置	側	側
	傷の大きさ 縦	cm	cm
	傷の大きさ 幅	cm	cm
	傷の大きさ 深	cm	cm
	傷の大きさ 地上高	cm	cm
	腐朽の位置	北　側	側
	腐朽の大きさ 縦	300 cm	cm
	腐朽の大きさ 最大幅	25 cm	cm
	腐朽の大きさ 最深	11 cm	cm
	腐朽の大きさ 最深部幹径	23 cm	cm
	根部の腐朽状態	軽微	
生物の営巣等		なし	

公園名	常盤公園
ZONE	1－3
調査木の現況 樹種	スモモ
調査木の現況 樹高H	8.5　m
調査木の現況 枝下高	2.6　m
調査木の現況 葉張W	[8.0 × 7.0] 8.0 m
調査木の現況 幹周C	120　cm
支柱の種類	なし
植桝形状	なし
	L　－　× W　－　m

腐朽・傷の位置、広がり



地上高　100 cm

開孔部の幅　25 cm

活力度ランク	樹勢	枝伸長量	上枝先端枯損	下枝先端枯損	枝幹枯傷	剪定巻込
	3	3	3	3	5	4
	葉の大きさ	葉の色	枝葉密度	病状	キノコ	
	－	－	－	なし	あり	

総合評価	経過観察	危険	
		本格措置	要伐木
		○	

特記事項	周辺に公園施設なし、民地（マンション）まで6m、樹冠被圧北側偏在、切枝部にキノコ、小動物等の営巣跡なし
所見・今後の対策	倒伏の危険性が大きいため、伐採が妥当であると考えられるが、公園施設や民地が周辺にないことから、生態系配慮の観点から主幹のみ残すことも検討する。

関　係　写　真

ＺＯＮＥ　１－３　　樹木 No.　　1

全景

主幹全体枯死

根元状況

芯露出腐朽傷激大